

令和2年11月 報道機関との定例懇談会 要旨

□ 情報提供項目

新型コロナウイルス感染症の対応状況、新型コロナウイルス感染症対策の取組み、中学校キャリア教育事業、北岩手循環共生圏講演会などについて市長から報道機関にお知らせしました。

□ 記者との質疑応答

記者：住宅リフォーム事業補助金は補正予算を追加で計上したいということだが、現在の申請受付分の規模となるか。かなりの反響がある事業のようだ。

市：12月の補正予算で増額したい。現計予算と併せて3千万円の規模としたい。この事業は市内建設業者への仕事の発注を増やし、経済効果もあると考えている。

記者：三陸沿岸道路は階上-種市区間など開通し、全線開通に向けて進んでいる。八戸-久慈間も今年度末に開通予定だが、八戸とつながることによる経済効果、または課題について教えてください。

市：久慈は八戸が通勤、通学、通院などの生活圏となっているので、移動時間の短縮は利便性がある。八戸駅は新幹線のダイヤのすべての停車駅であり、久慈へは観光客、ビジネス客も行きやすくなるというメリットがある。課題としては、八戸に集客が集中しないよう、久慈も広域道の駅などで特長を出して、八戸からたくさん来てもらうようにしたい。

冬場の通行についても高速道路は除雪体制がしっかりしているので安全に走れる。八戸との交流が活発になることを期待している。

記者：三陸沿岸道路は仙台までの全線の開通はまだ先であるが、八戸-久慈間がつながるだけでも物流などでも効果があると考えるか。

市：八戸圏域とつながるだけでも、車両の通行が多くなり効果があると考えている。

記者：八戸-久慈間がつながれば、大きなチャンスと思うが、集客への仕掛けづくりなど考えていることがあれば教えてください。

市：八戸には新幹線が停まるため、いかに久慈と八戸を結ぶかについて取り組まなければならない。短時間で移動したい人のために高速バスがあればいいと考えている。沿線の自治体とも連絡を取りながら考えていきたい。

記者：県内を横断する横軸の道路整備は遅れていると感じているが、最優先で進めなければならないところ、将来を見据えて整備を進めていくべきところを教えてください。

市：北三陸地域は、県の内陸部に比べて道路網が整備されていないことが、いろんな

面で遅れを生じている要因となっている。宮古-盛岡間、釜石-花巻間もつながり、次は県北の順番。県と足並みをそろえて国に要望したい。横軸の道路網整備が進めば、県北の発展、企業の進出も大きく違ってくる。